

でございます。

○田村(貴)委員 全然答えになっていないと思うんですけれど。

大臣、補足していただけますでしょうか。

去年、この委員会で我が党の宮本徹議員が品川とかの再開発問題について取り上げたんですよ。ビル群をつくれば層間人口はふえます、層間人口がふえるとやはり流入人口も一緒に来るというふうな質問をしたところ、石破大臣は、「普通に考えればそういうことなるかと思えます。」というふうにお答えになったと思えます。

天井知らずの開発をしていく、ビルの集積をしていく、そして世界一稼げやすいビジネス展開をしていく。そうすると、やはりどう考えてももつと人口はふえていくというふうな考えの私が私に当たり前だと思っております、それを予測されていないのか、対策を持っていないのか、御見解も聞かれない。これはちよつと困ったものだなと思っております。

○石破國務大臣 基本は、今、政府参考人から答弁させていただいたとおりであります。

委員御指摘のような御質問をいただきましたので、私も、地方から東京へ帰ってきますたびに、また一つタワーマンションがふえたねという感じで、雨後のタケノコとは言わないが、何となくそんな感じではんばん建つわけですね。そうすると、あの一棟で、私どもの選挙区であれば一つの町が入つちやうみみたいな感じなので、一体何なんだ、これはと。そこに一体どんな方が住まっております、それが東京に対する人口集中とどういう関係にあるのだということいろいろ手法で調べておるところであります。

まだ公に申し上げられる段階ではありませんし、もし御要請があればもう一度精査をしたいと思いますが、意外や意外、ああいうタワーマンションに住んでおられる方は、東京二十三区にお住まいだった方がタワーマンションに住まれたというところであつて、外から来られた方ではないと思えます。

では、そういう方々が今まで住んでおられたところに誰が入つてきたのか等々、また調べなければいかぬことだと思いますが、あのタワーマンションなるものが地方からの流入をさらに促進しているかという点、意外と数字から見ればそうではないという感じを今持つております。

いすれにしても、ちゃんと分析をしないままお答えしてもいけないので、そこはよく分析をした上で対策を講じなければいけません。

と同時に、これだけ木造密集住宅が存在しているところ、これだけ大きな特徴がございますし、いかにして震災等のときに被害が拡大しないような都市政策を展開していくかというところは、あわせてやつていかねばならないことだと考えております。

○田村(貴)委員 ぜひ分析と、そして精査を進めていただきたいというふうな思っています。

大臣、それから出席の議員の皆さん、私は東京と東京経済圏の発展について物を言っているわけではございません。政府が地方創生の二丁目一番地に東京圏の一極集中の是正を掲げているからこそ、そして、その方向と現実が真逆の方向を向いているからこの問題を取り上げていくわけでありませう。

今、一生懸命地方が、国の手引に沿って、そして国の方針に即して、人口ビジョン、総合戦略を立てております。こうした戦略にとつても、仕掛けが、土台が崩れてしまつたら、これはやはり地方の計画も成り立つていかならうというふうにも考えるわけでありませう。

資料③には、東京二十三区の人口予測をしております。青が人間研、国立社会保障・人口問題研究所の予測であります。緑が東京都の人口予測であります。現実が赤線であります。大きな違いを見せているところでありませう。

大臣、御存じかも知れませんが、一たかから東京という本がございませう。森記念財団の人口推計値を、財団の前の理事長である都市計

画の専門家伊藤滋さんがこの著書の中で紹介しているわけですね。何と述べられているかといひますと、これからは東京では公共、民間両面で経済活動が活発であること、人口ピークを迎えるのは、社人研や東京都の予測とは違つて、二〇四〇年以降になるというふうな持論を展開されている、こういう結果があります。

この表に基づいて、ちよつとこちらの表をちらんいたしたいんです。森記念財団の人口予測も、私がお配りした紙に乗せてみたんですけれど、オレンジのラインがこうなつていくわけですね。そうすると、これはやはり、今地方も参考している人口問題研究所とかその他の数値とはちよつと違つた状況になつてきているということ、それが読み取れると思つてます。もうちよつと実際に即した人口計画、人口予測値を示すべきではないかな、これは要望をさせていただきたいというふうな思ひます。

土台がやはり定まらない東京一極集中の是正について、国の総合計画を勘案せよと言われても、私は地方にとつてちよつと勘案しようがないところにあるんではないかなというふうにも思ひます。

重ねて言ひますが、やはり本腰になつて、一都三県、東京圏への人口集中、一極集中を是正しないと、私はこの問題は解決できないというふうにも思ひます。

きょう議論させていただいたと思つてすけれども、三日間議論させていただいたんですけれども、一丁目一番地に対して、政府の取り組み、その本気度がなかなかかかつかない。地方はよく頑張つておりますよ。私もよく見てきました。その本気度について、大臣、一番の所管大臣として今後どうを努力されるか、教えていただきたいと思ひます。

○石破國務大臣 これは、舛添知事やあるいは黒岩知事とよく議論をさせていただくことですね。例えば、舛添知事も福岡の出身で、そして地方のいろいろな状況はよく知つてはいるはずですね。地

方の高齢化もどんな問題かもよく知つてはいるし、炭鉱が閉山してどうなつたかということについても非常にリアルな実感をお持ちの方ですね。ですから、東京がどうか地方がどうかという話じゃなくて、このままだらば、二十年か三十年の時間差を置いて、地方も東京も同じように消滅、衰退に向かうという危機感を共有することが大事なんだというふうには思ひます。

昭和三十年から昭和四十五年までのたつた十五年の間に、五百万人の人が地方から首都圏に移り住んだ。去年は昭和でいえば九十年ですから、昭和三十年に十五歳で来た人は七十五歳になつておられるわけで、これから東京が迎える高齢化というものは、人口カーブがよしんばこのようなカーブを描いたとしても、それはどういう中身の人口構成ですかということまで突つ込んでお話をしなければ意味がないことだと思つております。

地方と東京とお互いが、ウイン・ウインの関係という言葉を私は余り多用したくないのですが、それへ持つていくためにはどうしたらいいかというところにお互い知恵を絞つていかなければ、国全体が消滅してしまつていふような危機感を共有したいと思つております。

○田村(貴)委員 時間が来ました。終わります。

○山本委員長 次に、宮本岳志君。

○宮本(岳)委員 日本共産党の宮本岳志です。

先日の石破大臣の所信を受けて質問いたしました。

大臣は所信の冒頭で、今のままなら日本人は二百年後に千四百万人、三百年後にはわずかに四百万人になるといふ試算を示した上で、国家そのものが持続可能性を失つと強烈な危機感を表明されました。

言うまでもなく、地方創生の取り組みは、人口減少社会の到来と地方消滅、こういふ増田レポートというものも一つきっかけにして、二〇一四年秋の臨時国会に当委員会が設置をされ、そして地方創生関連法が制定されたところから始まつております。東京一極集中を是正し、疲弊が進む地方

衆議院 地方創生に関する特別委員会 提出資料④ 2019年3月19日